

## 令和4年度事業計画

日本サニテーションコンソーシアム（JSC）は、APWF のサニテーションに関するナレッジハブ活動を通じて、アジア・太平洋地域の衛生状況の改善に貢献するため、令和4年度（2022年度）において、以下のような事業を実施する計画である。

ただし、事業計画（案）は、昨年度に続き新型コロナウイルス感染症拡大（COVID-19）の影響を一部考慮しているが、感染状況の推移によっては事業計画の変更、延期あるいは取止めなどが生じると想定される。

### 1. ネットワーキング

（国際機関と連携し、各国の衛生関係機関とのネットワークを構築する）

ナレッジハブの活用を促進するために、アジア・太平洋地域のサニテーションに係る機関、団体等を見出し、ネットワークの拡大を図るため、各種会議、ワークショップ等に参加する。この一環として国土交通省の受託案件「下水道分野における海外展開推進方策検討業務」（エム・アール・アイリサーチアソシエイツ㈱とのJV受注）の中で以下のような調査及び行事等の企画・支援を予定している。

- ① 海外における下水道整備の動向調査（アジア5か国）
- ② 政府間会議・技術セミナー等の開催・運営支援等（3か国・都市）
- ③ 本邦下水道技術の海外展開方策の検討

### 2. 情報収集

（アジア・太平洋地域の衛生に関する情報データベースを構築し、各国の衛生改善に関する調査を実施する）

#### 2-1 APWF（Asia-Pacific Water Forum Governing Council Meeting）

##### 執行審議会への参加

第28回アジア太平洋水フォーラムの執行審議会（6月頃開催予定）に参加し、ストックホルム世界水週間（8月23日～9月1日開催予定）において、「見えないものを見る：水の価値」をテーマとした同会議への参加について議論する。

### 3. 知識の普及と情報共有

(衛生に関する日本等の先進国の知識と経験の普及、途上国の情報と知識の共有のための国際セミナーを開催する)

#### 3-1 アジア汚水管理パートナーシップ (Asia Wastewater Management Partnership (AWaP) との協働

平成 30 年 7 月 25 日の第 1 回 AWaP 総会后、JSC は AWaP のパートナー機関となったが、パートナー機関として知識の普及と情報共有の活動を行う予定である。

#### 3-2 スtockホルム世界水週間のアジアフォーカスセッションへの参画

ストックホルム世界水週間 (8 月 23 日～9 月 1 日) において APWF が主催するアジアフォーカスセッションに参画し、情報の発信・収集を行う。

#### 3-3 第 4 回アジア・太平洋水サミット

第 4 回アジア・太平洋水サミットは、令和 4 (2022) 年 4 月 23 日～24 日に熊本市で開催され、このサミットのテーマは「持続可能な発展のための水～実践と継承～」である。JSC は分科会 5 (テーマ: 水と衛生/汚水管理) において、国際連合人間居住計画 (UN-HABITAT) 及び国土交通省、環境省とともに、「持続可能な開発に貢献するための適切な廃水管理の実現に向けて (Toward the realization of appropriate wastewater management to contribute to sustainable development)」題したセッションを主催する。

#### 3-4 第 14 回日越定期協議への参画

ベトナム国建設省と日本国国土交通省間の下水道分野における技術協力に関する定期会議が令和 4 年 6 月を目処に開催される予定で調整されており、JSC は、その開催を支援する。

#### 3-5 第 10 回アジアにおける分散型污水处理に関するワークショップ

前年度に引続き、アジアにおける分散型污水处理システムの普及推進に向けて各国間での情報共有並びにネットワーク構築を図るため、2022 年に環境省が主催する「第 10 回アジアにおける分散型污水处理に関するワークショップ」の開催を支援する。

#### 3-6 インド行政官大学 (ASCI) のオンライン研修コースへの参加

一昨年度及び昨年度に続きアジア開発銀行研究所 (ADB) の支援によりインド行政官大学 (Administrative Staff College of India (ASCI) が実施するオンライン研修コー

ス’ On-line Course on Leadership Development for City-Wide Inclusive Sanitation’  
(2022 年は、7～9 月に開催予定) に講師として参加し、分散型污水管理制度等について説明する。

#### 4. 国際援助機関への支援

(ADB・JICA 等国際援助機関に対し、衛生関係技術者の養成を実施するとともに、プロジェクトの調査や適正技術の選定に対する助言や専門家の紹介などを行う。)

##### 4-1 ビル&メリンダ・ゲイツ財団 (BMGF) / アジア開発銀行研究所 (ADB) との連携強化

途上国の衛生状態の向上を目的とする BMGF と ADBI が提携し、さらに ADBI と JICA の連携により浄化槽など分散型を含む包括的な都市衛生改善の研修実施を支援する。また、ADBI 及び東洋大学と協力して途上国の衛生関係と東洋大学の学生向けに分散型污水管理コースの実施に向けて (8 月に対面にて実施予定) 支援を行う。

#### 5. その他の活動

##### 5-1 ISO/TC224/WG8 (ローテクを用いたオンサイト生活排水のマネジメント) 活動への参加

平成 30 年 11 月に ISO TC224/WG8 の新しい規格「飲料水及び下水サービスに関する活動— 基本的なオンサイト生活排水サービスのマネジメントに関するガイドライン 維持管理活動」の作成に係る活動に、環境省委託業務の一環として日本の分散型污水处理のマネジメントに関する知見を各国と共有するために、日本環境整備教育センターが参加する。今年度の会議は、6 月と 11 月に WEB 開催の予定である。

##### 5-2 ISO/TC 282/SC 2/JWG 1 (都市部の分散型污水处理計画のための費用分析ガイドライン) 活動への参加

ISO TC 224/WG 8 と ISO/TC 282/SC 2 のジョイントワーキング JWG 1 の規格 (ISO 24575、「都市部の分散型污水处理計画のための費用分析ガイドライン」(仮)) の作成活動に、環境省委託業務の一環として日本の分散型污水处理技術 (浄化槽) に関する知見を各国と共有するために、日本環境整備教育センターが参加する。今年度の会議は、11 月に WEB 開催予定である。

### 5-3 地域・コミュニティにおける簡易な汚水・汚泥処理整備手法の調査

昨年度 J S C の事務局定例会において討議された J S C 独自の活動として、東南・南アジア地域の地域・コミュニティを対象とする簡易な汚水・汚泥処理整備の手法の検討準備のため、今年度は真空式下水道、小口径推進、小規模処理方式・設備などの小規模下水道技術の情報を収集する。

また、これらの知見に基づき JICA 課題別研修「下水道マネジメント」において、低コスト、早期かつ機動的な小規模な汚水処理整備手法として紹介し、途上国からの研修生に対するニーズに応じて行くことも検討したい。